

妖怪旅日記

黄昏時、妖怪タクシーは京都駅を出発します。

黄昏は「たそかれ」「誰そ彼」つまり「あの人誰…」っていうのが語源で、すれ違う人の顔の判別が出来なくなるような時間を意味します。

隣にいるのが人なのか、そうでないのかも分からなくなる時間です。

そんな妖しいムード満点な京の町を妖怪タクシーは東寺、羅城門址、西寺址を走る抜けま

す。これらは、平安京の玄関として作られたものです。

旅の出発にはなんともおあつらえ向きではありませんか。

この羅城門、平安京遷都当初は新たな都の華やかさを象徴する荘厳な大門だったそうですが、なんかこの「らじょうもん」という言葉の響き、少し怖いイメージがありませんか？芥川龍之介の小説しかり、黒沢明の映画しかり、「羅城門」というタイトルの作品は荒廃と死のにおいがします。

それもそのはず、この羅城門、平安京遷都から間もなく倒壊し、再建されるもまた倒壊し、荒れ果てたまま放置されたそうです。

ですから、当時の都人にとっても「荒廃した場所」「恐ろしげな場所」として認識されていて、何でも鬼が住み着いたとか…。

さて、お次は神泉苑に向います。

大内裏（当時の帝のお住まい）の南に位置する、大池があった大庭園だったそうですが、家康さんが二条城を築城した時、その敷地のほとんどが取り込まれてしまったそうです。

ここは、弘法大師空海がライバルのお坊さんと雨乞い合戦をした時に、ライバルのお坊さんに日本中の龍を封印されてしまったので、インドから龍の神様を呼び寄せて雨を降らせたというお話をはじめとした、龍のお話が多いです。

龍の住処ですね。

ちなみに、源義経と恋人である静御前が出会った場所とも言われていますので、縁結びにもご利益があるかもしれませんね。

お次はすぐ近所の二条児童公園。

ただの公園なんですけど、敷地内に小さな池と小さなお社があります。

その名も「鶴池」「鶴大明神」。

そう「鶴が鳴く夜は恐ろしい」のあの鶴です。

ある時、帝の寝室の上空から夜な夜な不気味な鳴き声が出て、帝はそれが原因で病みついてしまいます。

そこで、弓の名手である源氏の侍、源頼政がその声の主を退治することになります。その夜、帝の寝室の上空にもくもくと黒雲が現れ、その中から不気味な鳴き声が…。源頼政、黒雲の中に矢を射ると、どんがらがっしょん！と声の主が転げ落ちてくる。これが鵄です。

この鵄、頭は猿、体は狸、手足は虎、尾は蛇という怪物なのです。その鵄を射た矢を洗い鵄の血を洗い流したのが「鵄池」、鵄の霊を鎮めるためにお祭りした社が「鵄大明神」です。

ちなみに、この鵄なんですが、都人たちは崇りを恐れて鵄の遺体を鴨川に流します。そして鴨川から淀川、今の大阪湾まで流れたとか。これにちなんで大阪湾の紋章はとってもカッコイイ鵄のデザインが使われています。

夕食タイムは大將軍商店街、「お食事処いのうえ」で知る人ぞ知る名物、妖怪ラーメンをごちそうになります。

この大將軍商店街が位置している一条通りも妖怪伝説が多く、百鬼夜行にばったり出会ってしまった男が鬼たちに寄ってたかって唾を吐きかけられ透明人間になってしまったり、女の子に化ける狐を懲らしめに来た侍が逆に化かされて鳥辺野（平安京の大墓地）に置き去りにされたり、捨てられて古道具が変化したりと…。

今でも、こういう妖怪伝説をテーマにまちおこしをしていて一条通りを「妖怪ストリート」と名づけて色々妖しい活動をしているのですから筋金入りの妖怪スポットですね。

食事を終えて次のスポットは將軍塚です。

京都でナンバー1の夜景スポットなんで、毎晩人でいっぱいなんですけど、ここにもあまり知られていないお話があります。

この「將軍塚」っていうのもなんか物々しい名前でしょ？

この將軍塚は794年、鳴くよウグイス平安京に遷都した桓武天皇が、この地から京都盆地をご覧になって、この地に都を作ろうと決心された場所なのです。

で、新たに作る都の守護神として初代征夷大將軍である坂上田村麻呂を模した人形に鎧、刀で武装して埋めたそうです。

一説には、田村麻呂本人の遺体に武装させて立ったまま埋葬したとか言う話も…。

以来、日本に異変があるとこの塚が鳴動すると言われていました。

最後は、河原院跡です。

河原院とは光源氏のモデルになったとも言われている源融のお屋敷のことで、平安京ナンバー1のお化け屋敷です。

融の死後、河原院は帝の手に移るのですが、ある時帝がガールフレンドとともに河原院でデートをしていると融の霊が現れ、「彼女を私にお譲りください」と言う。

帝はお怒りになり、拒否するや否や融の霊はがばっと帝の腰に取り付いてきたという恐ろしい話です。

その他にも東国から来た夫婦が河原院にやって来たとき、奥さんが屋敷の中に吸い込まれたりとか、安倍晴明のライバルである蘆屋道満が呪いを行う際の秘密基地に使ったり、光源氏の恋人である夕顔が怨霊に祟り殺される某院のモデルとも言われています。

そんな河原院跡、カップルで行く場合はご用心ください。

以上、第一回京都妖怪ツアーは終了です。

ご参加いただきましたお客様、お疲れ様でした。

まだまだ、紹介し足りない場所は山のようにありますので、次回もぜひぜひご参加くださいませ。